

上北山村河合周辺地区郷(まち)づくり基本構想

2020年 5月

目 次

- 1. 構想の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2. 上北山村の現況と課題・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 3. まちづくりのコンセプトと取り組み方針・・・・・・・・14
- 4. まちづくり基本構想図・・・・・・・・・・・・・・・・16

1－1．構想策定の背景と目的

- ・上北山村は、村全域がユネスコエコパークに登録され、日本百名山・大台ヶ原の麓にある大自然に囲まれた村である。上北山村はかつて基幹産業であった林業が衰退し、人口の減少は著しく限界集落化が進むと予想されるなか、「観光立村」を目指している。
- ・なかでも、河合周辺地区は、役場、郵便局などの生活拠点が立地するとともに、道の駅吉野路上北山（以下、「道の駅」）、上北山温泉薬師湯など来訪者が立寄る拠点が集中する、村の中心地区であり、2018年の旧小学校跡地（上北山村生涯学習センター（以下、「とちの木センター」））のリニューアル、道の駅におけるコンビニの誘致に続き、温泉、旧宿泊施設「ふれあいの郷 かみきた」は、「フォレストかみきた」へとリニューアルし、5月にオープンする。こうした動向に合わせて観光客の誘致拡大により地域の賑わいや、雇用の創出と地域の経済循環の活性化をもたらすと同時に、地域での繋がり・住民相互の助け合いをはじめとした様々な地域活動の創出が必要である。
- ・本構想は、「奈良県と上北山村との郷（まち）づくりに関する包括協定」（平成29年9月28日）に基づき、「河合周辺地区」を対象として地域の活性化に関するまちづくりの方向性をとりまとめたものである。本構想により、奈良県・上北山村・地域住民等が連携・協働し、まちづくりに取組んでいくものとする。



旧宿泊施設「ふれあいの郷 かみきた」（リニューアル中）

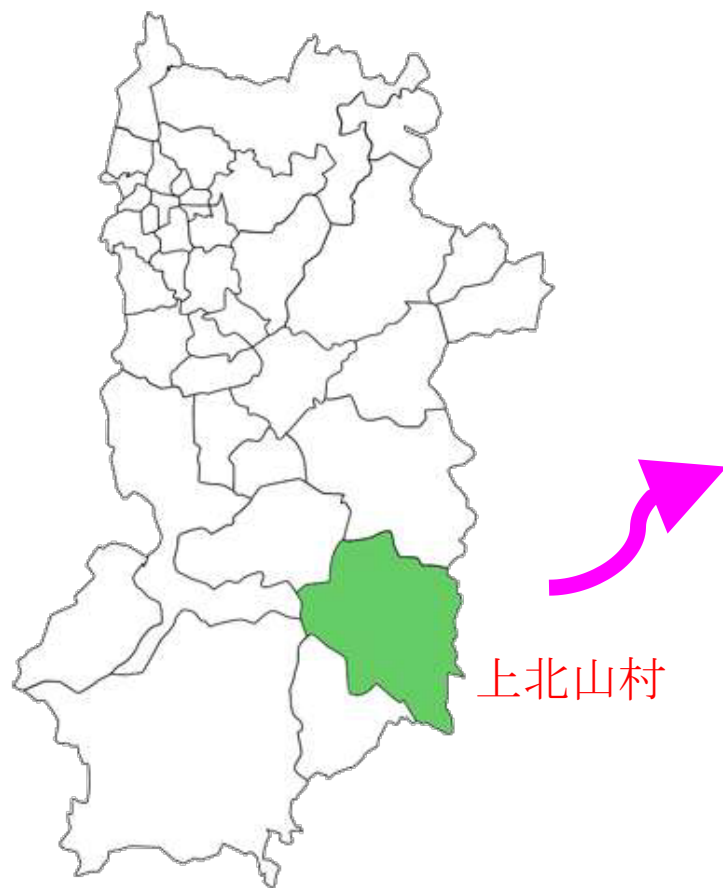


北山川の清流

1. 構想の位置付け

1－2．対象地区の位置図

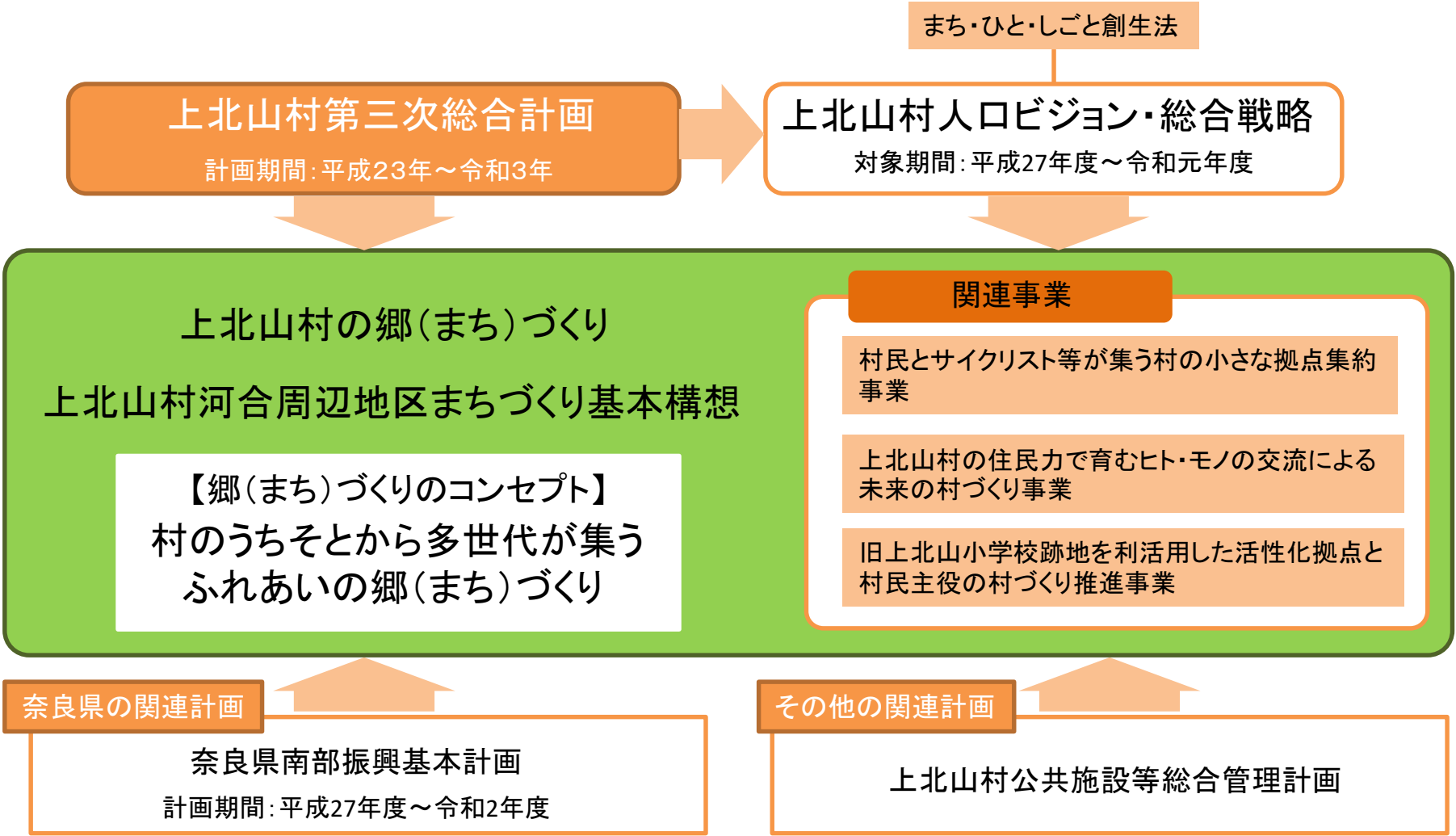
- ・上北山村は、奈良県南東部に位置し、北は川上村、南は下北山村と国道169号でつながっている。
- ・隣接市町村との境界は山が多く、天川村が国道309号(冬季通行止め)でつながっている以外は、五條市、十津川村、三重県大台町、紀北町、尾鷲市、熊野市と直接自動車アクセスしづらい。
- ・河合周辺地区は、上北山村の中心に位置し、大台ヶ原、和佐又山など来訪者が多い場所から南に10～20km程度の距離がある。



1. 構想の位置付け

1－3. 構想の位置付け

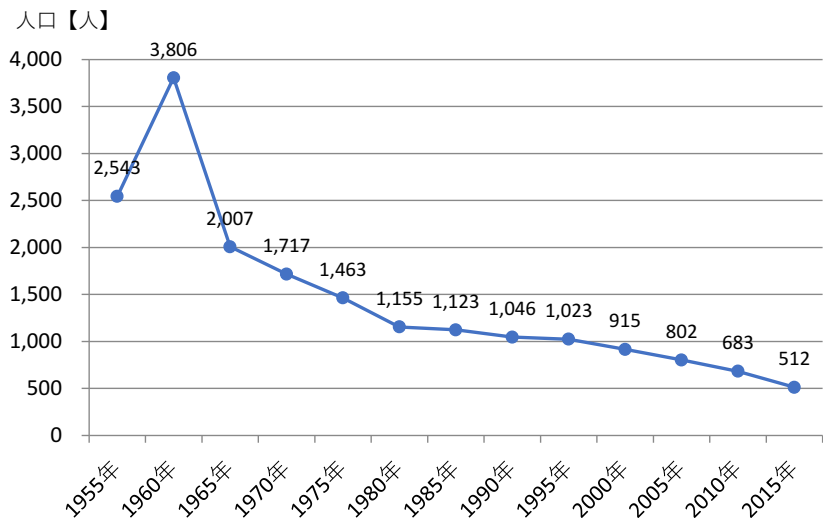
・本構想の位置づけ、上位計画・関連計画を踏まえた対象地区の位置づけは、下記に示すとおりである。



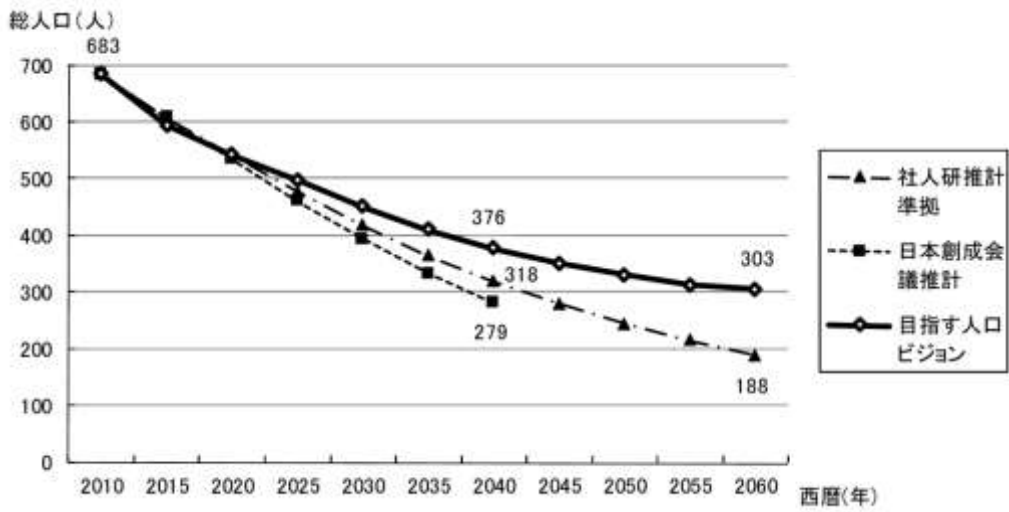
2－1．人口

- ・上北山村の人口は、ダム工事の影響を受けた1960年には3,806人まで大きく増加しているが、1965年には2,007人まで一気に減少した後は年々減少が続き、2019年10月現在で490人となっている。
- ・上北山村人口ビジョン・総合戦略[H27]では、2040年の人口は318人[社人研推計準拠]と推計されている。
- ・推計のように人口減少が進んだ場合、商店や飲食店などの経営が立ち行かなくなり、安心した生活を送ることが困難になったり、行政サービスの負担が大きくなることも考えられる。
- ・平成27年時点で村全体の空家総数が140戸、河合地区が39戸となっており、人口減少とともに空き家も増加していくことが想定される。
- ・上北山村人口ビジョン・総合戦略[H27]では、本村の現状や人口減少による影響を踏まえて2040年の目標人口を376人としており、人口減少を少しでも食い止めるため、仕事づくりや観光・魅力の発信とともに、移住促進・定住環境整備などが求められている。

人口の推移



将来人口推計と目標人口



※2010年の総人口を基準に推計 【資料:上北山村「人口ビジョン・総合戦略」】

2－2．交通

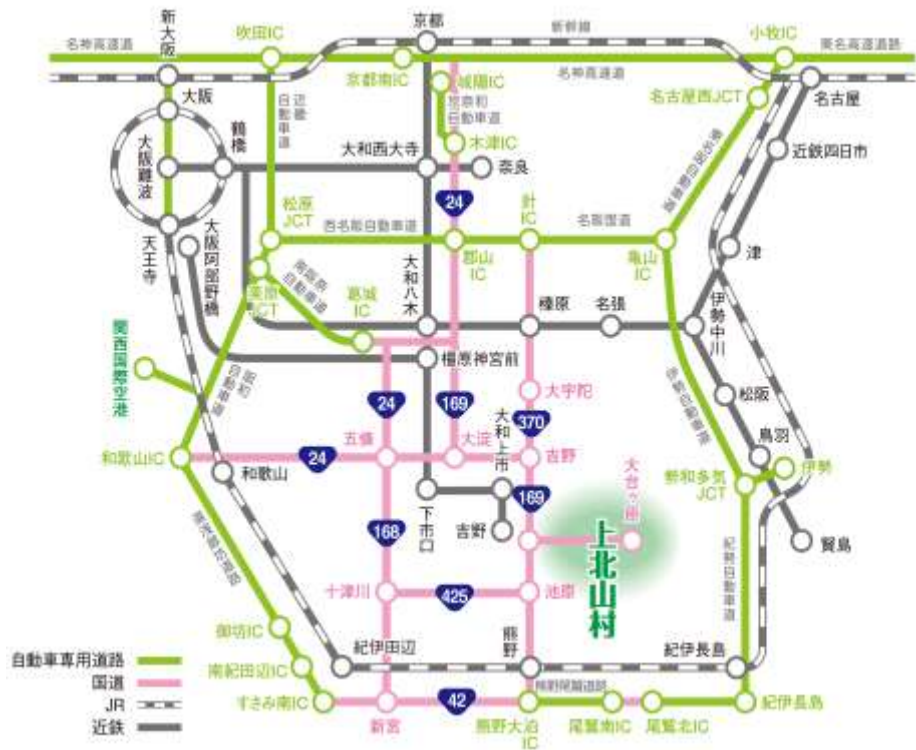
《道路》

- ・国道169号が南北に貫き、県道226号により河合から小椋方面につながっている。国道169号で繋がる下北山村、川上村へはアクセスできるが、五條市、十津川村、三重県大台町、紀北町等へは自動車道路がないため、アクセスが難しい。
- ・国道169号は土砂災害等の災害時に不通となり、孤立化することが危惧される。

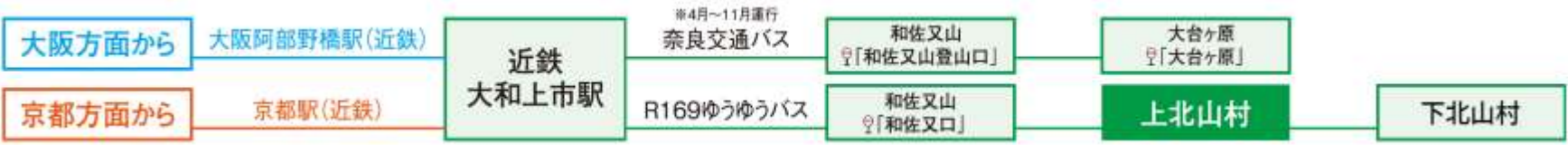
《公共交通》

- ・公共交通機関では、近鉄大和上市駅から和佐又山登山口・大台ヶ原まで奈良交通バス(4～11月運行)、河合周辺地区までR169ゆうゆうバス(南部地域連携コミュニティバス)がそれぞれ運行している。
- ・村内はコミュニティバスが1日2本運行しており、河合周辺地区(診療所、とちの木センター等)と村内の他の集落をまわる。また、別途スクールバスも運行(登下校)しており、地域住民も乗降可能である。

広域アクセス図



平日 上下各1本 / 土日祝日 上下各2本



平日・休日ともに 上下各1本

2-3. 生活

《行政施設》

- ・河合周辺地区は、役場、郵便局、村民総合会館、国保診療所(ワースリビングかみきた)、商工会などの施設が集積しており、村の中心地である。

《福祉施設》

- ・ワースリビングかみきたには、国保診療所と保健センターがあり、保健センターには高齢者等の介護予防のための設備、介護・一般浴室、調理実習室等のほか、居室(5部屋)も備えている。居室は、現在あまり利用されていない。居室等の未利用スペースの活用については、管理方法も含めて検討する必要がある。

《その他、商店等》

- ・商店は村内に3店舗あり、うち河合周辺地区に2店舗がある。熊野方面から定期的に鮮魚が仕入れられるなど、住民の生活を支えている。
- ・一方、道の駅の中にコンビニがオープンしたほか、ならコープ(配達)が定期的に入っている。
- ・その他、道の駅の北側にガソリンスタンドが1件ある。



ワースリビングかみきた



《住民生活》

- ・入院や高齢で自立して生活できなくなってくることなどがきっかけで、村外に移住する傾向にある。
- ・隣接市町村と連携による緊急医療体制は確保されているが、緊急時の総合病院への移送手段などが課題である。
- ・平成27年8月に実施した住民アンケート(回答数29人)で、子育て環境充実に向けた取組みとして「子育てと仕事の両立しやすい環境の整備」との回答が最も多くなっている。

《河合周辺地区の事業の動向》

○とちの木センター リニューアル(2018年4月)

- ・音楽・映像交流室、小さな図書館、キッズルーム、キッチンなど
- ・シェアオフィス・・・住民グループ等が活動する拠点
- ・簡易宿泊施設・シャワールーム・・・合宿等の大人数の宿泊に対応
- ・ランドリー室、コミュニティカフェ・・・住民の交流の場、宿泊者のために設置
- ・トレーニングジム・・・体育館に健康増進等のためにトレーニング設備を設置



○コンビニ開設(2018年4月)

○「フォレスト かみきた」 リニューアル(2020年5月)

《住民活動グループ》

○かみきた～孫の手会

- ・2017年2月から活動する、主に高齢者の一人暮らしの方など、日常生活に対する手助けを行うボランティアグループ。
- ・家具など重いものの移動、家の清掃など、体力的に困難なことを支援する。

○がんばろえ！かみきた

- ・子どもや孫の未来を考え、自分にできることで何とかしたい、と自主的に集まった住民グループ。
- ・2018年4月に法人設立し、「やまんなかマルシェかみきた」をはじめとする交流イベント開催、特産品の販売、上北山村の魅力情報発信などに取り組んでいる。



2-4. 産業

《産業全般》

- ・上北山村の総面積の97%を森林が占め、大半が民有林であり、人工林率は39%と、奈良県南部東部の市町村の中では最も低い。かつては林業が基幹産業として栄えたが、林業の構造不況に直面して衰退している。
- ・従業者数は建設業が最も多いが、平成21年から26年にかけて大幅に減少している。また、建設業に次いで、卸売業・小売業、宿泊業等の従事者が多い。

《川魚》

- ・本村は北山川の上流に位置し、県内でも屈指の水質であり、近年アマゴ・鮎等の遊漁者が増加している。（平成26年度から平成29年度の3年間で46%増）
特に、7月に遊漁者が最も多く、河合周辺より、小椋方面（小椋川）や西原方面（北山川上流）の方がより遊漁者が多い。
- ・放流量を増やしてほしいという声もあるが、漁業協同組合の資金面での課題がある。
- ・良質な水を利用して、1970年から西原地区でアマゴの養殖が行われている。かつては白川地区でウナギの養殖も行われていたが、廃止されている。

《獣肉》

- ・2013年11月に上北山村獣肉加工センターを開設。シカ・イノシシ肉の加工販売を行っており、吉野鹿・吉野猪ブランドとして発信している。

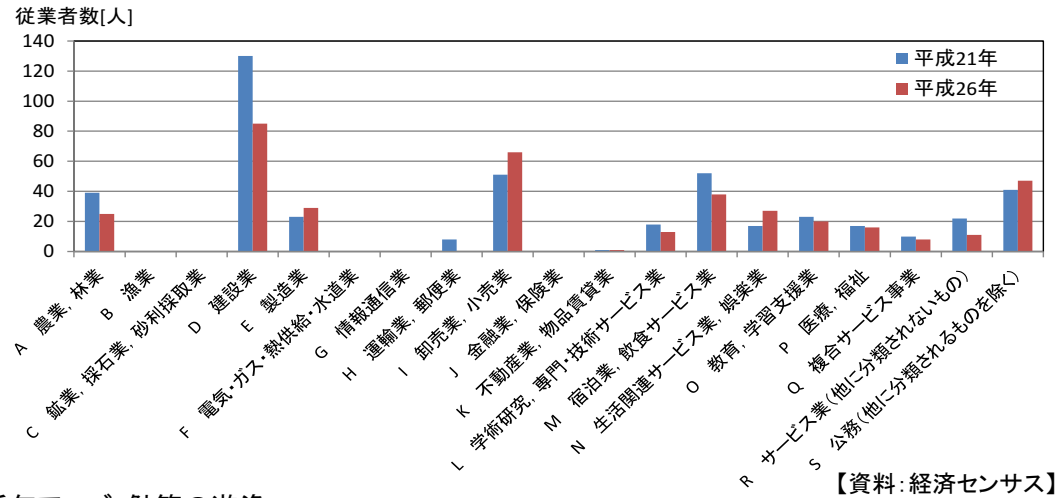
《木工品》

- ・吉野杉箸のほか、小物など木材加工品の製作工房がある。以前は「北山漆器」と呼ばれるケヤキ、トチ等の天然木を加工した盆、茶托なども製作されていた。

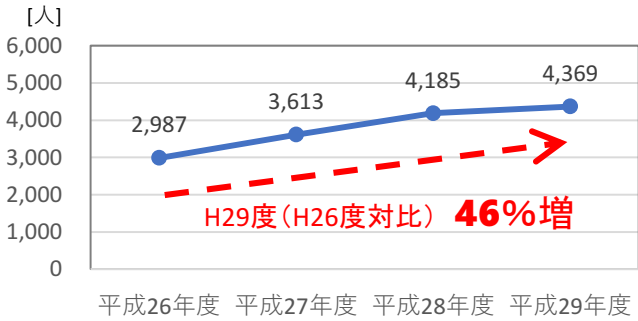
《その他》

- ・日本遺産・吉野の構成文化財にも指定されている栃餅、柿の葉寿司のほか、こんにゃくなどがある。
- ・過去には、ワサビ田、シイタケ園など新たな産業の育成にも取り組まれたが、いずれも定着していない。

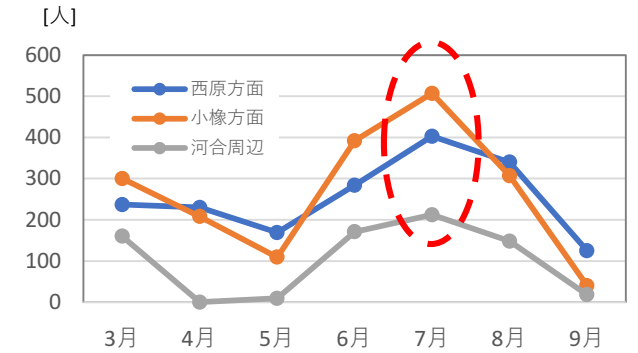
産業区分別従業者数の推移



年度別遊漁者数の推移



月別遊漁者数 [平成29年度実績]



2－5．観光

《観光資源》

- ・吉野熊野国立公園、大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク内に位置し、日本百名山の大台ヶ原(日出ヶ岳)、大峰山(八経ヶ岳)を有するほか、和佐又山、山の尾根が「天に昇る龍」とたとえられるナメゴ谷の紅葉、かくれ滝など、大自然を背景とした観光スポットが村内に点在する。
- ・河合の弓引き行事[八日薬師]は、山の仕事の安全と一年の暮らしの安寧を願うもので、日本遺産・吉野の構成文化財、奈良県指定無形文化財にも指定されている。
- ・平成27年8月に実施した住民アンケート(回答数29人)では、「上北山村の魅力や誇れるもの」として、「美しく透き通った清流」、「日本百名山大台ヶ原・世界遺産大峯奥駈道などの知名度のある山々」の順となっており、村民の中でも川を大切にしたいという思いが強い。

《施設等》

- ・「ふれあいの郷 かみきた」は、世界水準の価値を持つ大自然リゾートの拠点となる宿泊施設「フォレストかみきた」へとリニューアルし、令和2年5月にオープン。「フォレスト かみきた」に併設されている森林ファミリーパークは現在閉鎖されており、旧カモシカ園には花木が植栽されている。
- ・温泉施設は、「フォレスト かみきた」内の「上北山温泉薬師湯」、小処温泉の2箇所である。
- ・隣接村では、都市部で非常に人気の高いキャンプ場が多数立地しているが、本村では和佐又山以外にキャンプ場がない。
- ・村内の旅館・民宿等も年々閉業が進み、河合周辺地区では現在、宿泊施設が3軒(常時営業は1軒)、飲食店が2軒、お土産店が2軒となっている。
- ・旅館・民宿等の減少は、村全体として観光の受入れ基盤が来訪者のニーズに合わなくなっていることも要因の一つと考えられ、ハード・ソフト両面から来訪者目線で観光の見直しを図っていくことが求められる。



大台ヶ原・大峯山・大杉谷
ユネスコエコパーク【大台ヶ原】

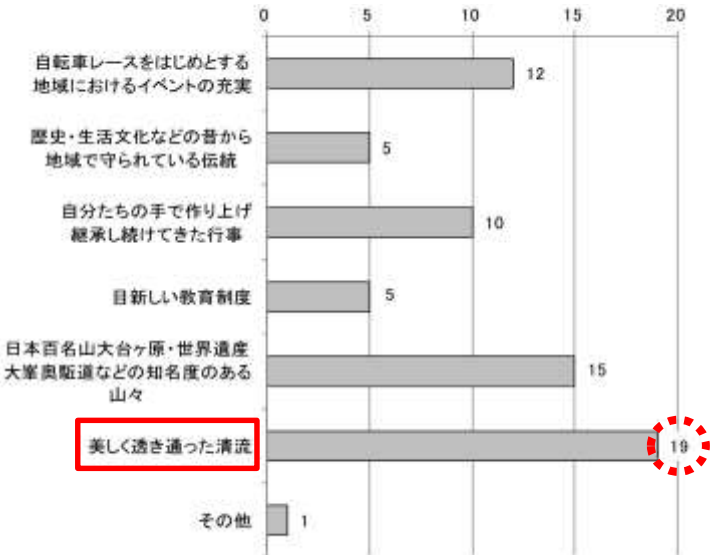


河合の弓引き行事 [八日薬師]



北山川

上北山村の魅力や誇れるもの



【資料:上北山村「人口ビジョン・総合戦略」住民アンケート(平成27年8月)】

《集客イベント等》

- ・2001年から開催されている「ヒルクライム大台ヶ原 since 2001」は、日本百名山・大台ヶ原の麓から標高差1,240m、距離28kmを駆け上がる自転車レースで、毎年800人近くの選手が集まる。
- ・河合周辺地区がスタート地点となっており、開催前後には河合周辺地区を中心に地域外から多くの人が宿泊・滞在する。
- ・大台ヶ原や和佐又山などにおいて、「大台ヶ原マラソン in かみきた」、「心の道ウォーク」等のほか、冬の観光としてスノーシューハイクなどのイベントを開催している。

《観光客数の現状》

- ・「ふれあいの郷 かみきた」の休館以降、観光客数も減少傾向であり、総合案内センター（道の駅）の来客数は平成27年度41,359人から平成29年度32,261人に約22%減少している。
- ・総合案内センターへの月別来客数は、夏（8月）と春（4～5月）に多い。夏場は河川敷での川遊び客、バーベキュー客が多く、ゴミの放置、道の駅の駐車場の混雑等の課題が顕在化してきている。
- ・周辺町村でも、川遊び客・バーベキュー客の増加に伴い、ゴミが問題となり、河川周辺でのバーベキュー禁止条例の施行やバーベキュー利用可能区域の指定などの対策が取られている。
- ・大台ヶ原の来訪者数も平成27年度をピークに減少傾向であり、平成27年度107,261人から平成30年度79,181人に約26%減少している。
- ・10～11月の紅葉の時を中心に、大台ヶ原駐車場が満車となり、路肩駐車が一年で20日前後発生している。（路肩駐車が100台以上となる日もある。）一方、大台ヶ原が閉鎖される冬場の集客は課題である。

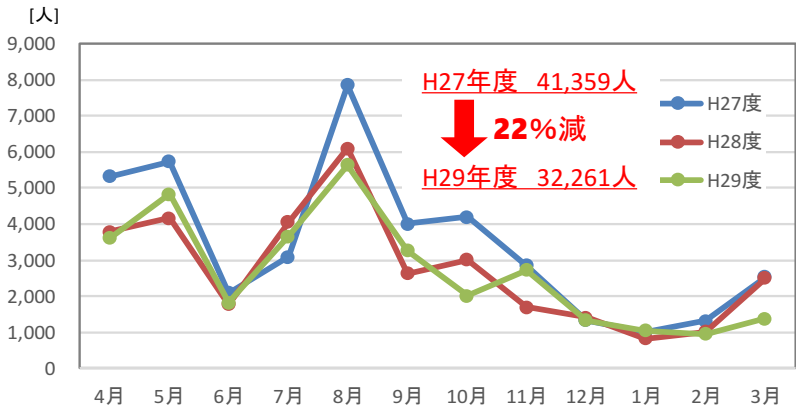


ヒルクライム大台ヶ原 since 2001

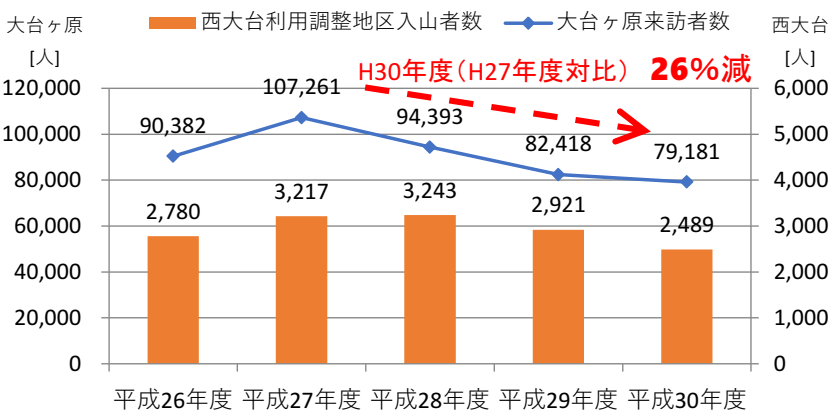


和佐又山スノーシュー

総合案内センター〔道の駅〕来客数の推移



大台ヶ原の来訪者数の推移



《上北山村への来訪者の特性 1》

- ・大台ヶ原は近年の登山ブームや自然愛好者の増加等により、20歳台を中心に若い層の来訪が増えていると考えられる。
- ・道の駅、大台ヶ原ともに家族、友人・知人連れでの来訪が8～9割で、団体客はほとんどない。
- ・道の駅では家族連れが約5割、大台ヶ原では友人・知人での訪問が約5割と若干傾向が異なる。

- ・今回の旅の目的として、道の駅ではドライブが約4割を占め、道の駅にはトイレ休憩等で立ち寄ったという方が多く、大台ヶ原を目的として来訪した方が少ない。
- ・一方、大台ヶ原では、登山、ハイキング、自然・景勝地鑑賞が大半となっており、大台ヶ原を目指して来訪している。

上北山村来訪者アンケート調査結果[2018年8月～11月中旬]

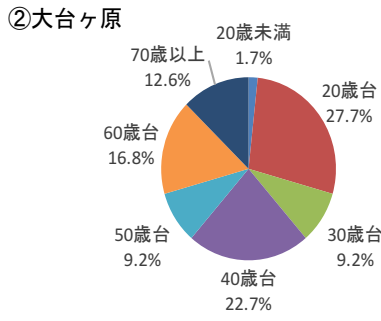
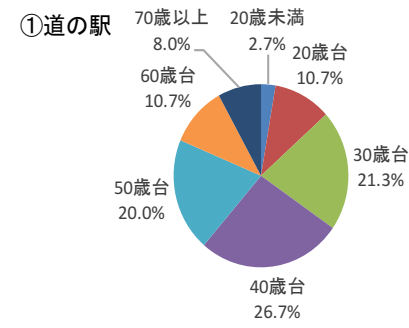
①道の駅吉野路上北山 75人



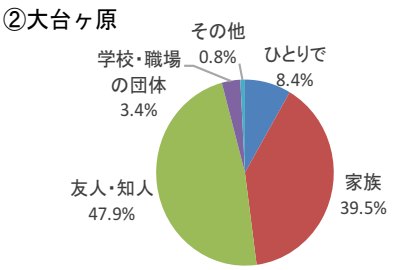
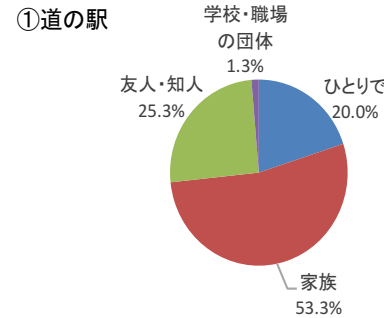
②大台ヶ原 119人



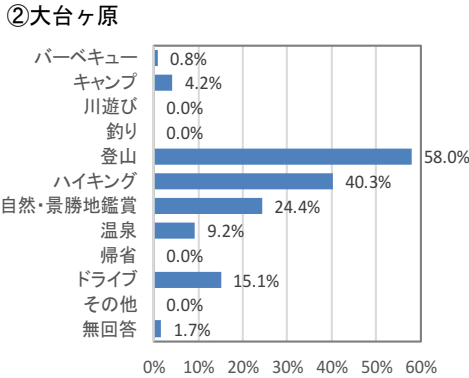
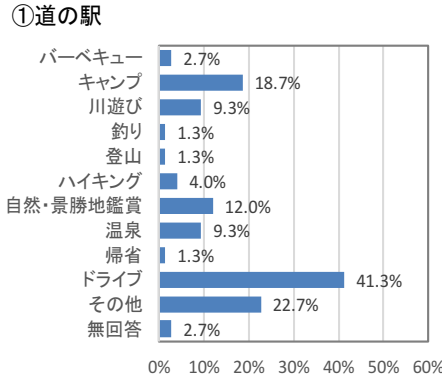
[年齢]



[同伴者]



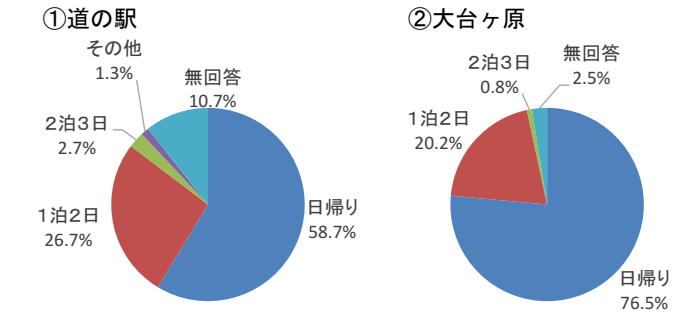
[今回の旅の目的]



《上北山村への来訪者の特性 2》

・道の駅は日帰りが約6割、大台ヶ原は日帰りが約8割。

[滞在日数]



- ・道の駅来訪者のその他の立ち寄り先は、大台ヶ原など村内の景勝地と下北山村、十津川村、熊野市が多く、村外の観光地に向かう通過地点・休憩地点となっている。
- ・一方、大台ヶ原来訪者のその他の立ち寄り先は、川上村や天川村・吉野町方面が多く、河合周辺地区に立ち寄らず日帰りで帰省している人が多い。

[その他の立ち寄り先]

道の駅		大台ヶ原	
上北山村内	22	上北山村内	9
大台ヶ原	14	道の駅	4
その他	8	その他	5
下北山村（きなりの郷、不動七重の滝等）	16	川上村	17
		入之波温泉	8
		杉の湯・道の駅	8
		その他	1
十津川村（玉置神社等）	7	天川村	4
熊野市（花の窟神社等）	5	吉野町	3
その他、和歌山県内（北山村、串本、新宮等）	8	大台町	3
		下北山村	3

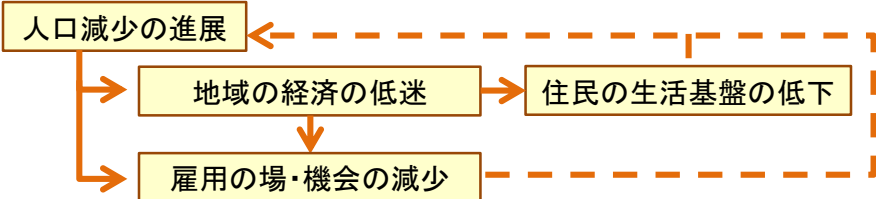
※それぞれの場所で調査地点の回答分（道の駅来訪者が道の駅周辺と回答、あるいは大台ヶ原来訪者が大台ヶ原と回答）は除く。



3. まちづくりのコンセプトと取り組み方針

上北山村の課題

課題1: 過疎化・高齢化がもたらす負のスパイラル



課題2: 安心して暮らせる環境が必要

- 災害等による集落の孤立化の恐れ(国道169号の寸断)
- 買い物、福祉など日常生活を支える機能の維持・確保
- 若い世帯の暮らしを支える仕組みづくり

課題3: 基幹産業の低迷による閉塞感

- 林業の低迷、建設需要の低迷による従業者数の減少
- 新たな産業の育成・定着が進んでいない

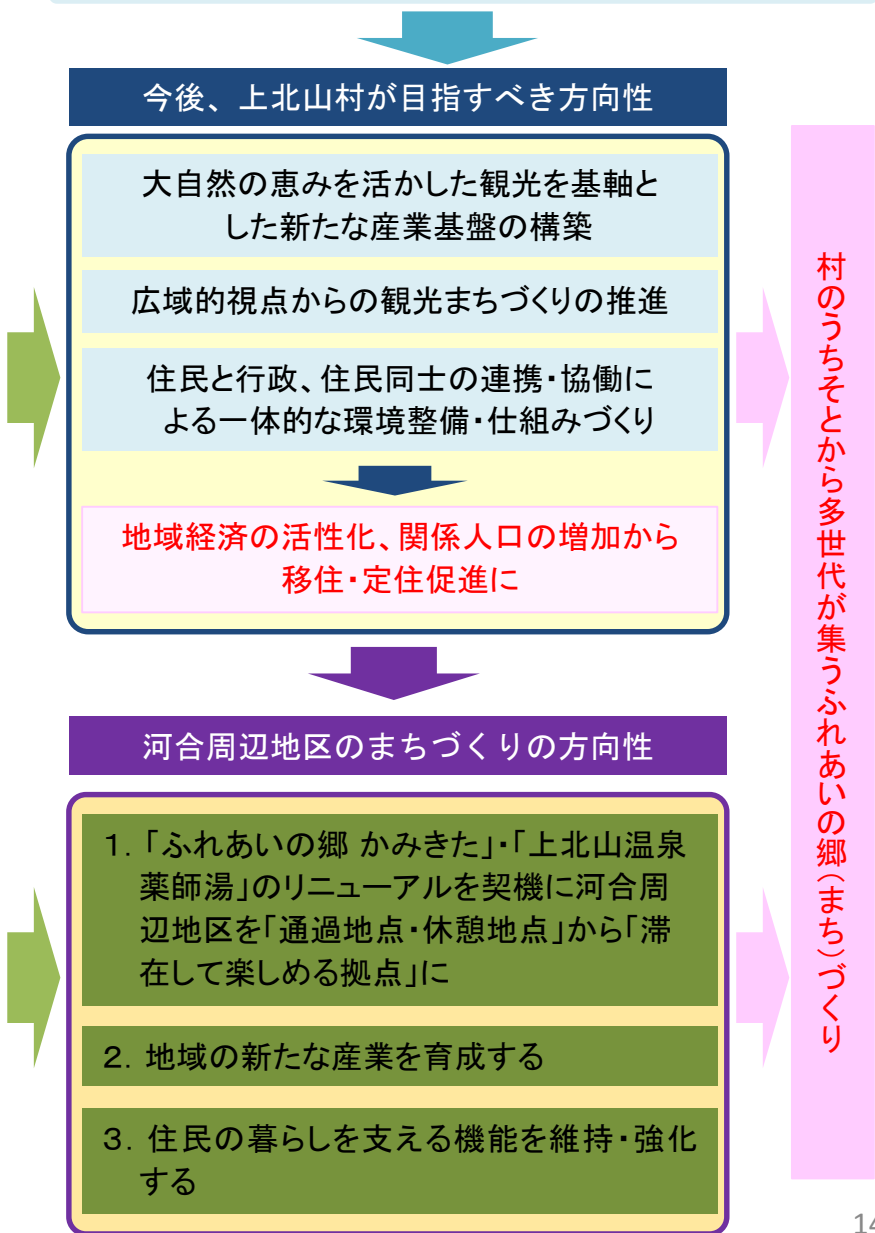
課題4: 来訪者の受入れ基盤が弱い

- 年々道の駅への来訪者数も減少
- 村内の旅館・民宿、飲食店等も年々閉鎖
- 大台ヶ原の来訪者数は平成27年をピークに減少傾向

課題5: 観光客の季節変動への対応や地域への経済効果をもたらす仕組みが必要

- 来訪者の季節変動が大きく、大台ヶ原ではピーク時に駐車場がキャパオーバー(年間20日程度)、道の駅も夏場に駐車場が不足
- 大台ヶ原来訪者は日帰りが多く、河合周辺地区への訪問が少ない
- 道の駅周辺における川でのキャンプ客・バーベキュー客のゴミ問題
- 大台ヶ原や国道309号が閉鎖される冬場の観光対策

上北山村を取り巻く状況(上位計画・関連計画、動向)



まちづくりのコンセプト

村のうちそとから多世代が集うふれあいの郷(まち)づくり

まちづくりの方向性	基本目標	具体的な取り組み
1. 「ふれあいの郷 かみきた」・「上北山温泉薬師湯」のリニューアルを契機に河合周辺地区を「通過地点・休憩地点」から「滞在して楽しめる拠点」に	来訪者が立寄りたくなる空間整備	・「ふれあいの郷 かみきた」・「上北山温泉薬師湯」が「フォレストかみきた」へリニューアル
		・まちの顔となる修景整備(道の駅周辺の案内サイン、橋梁等の修景、イルミネーションなど)
		・「フォレスト かみきた」周辺の水辺空間の整備 (バーベキュー禁止区域指定の検討やバーベキューサイト整備など)
		・旧かもしか園・森林ファミリーパークの活用(植栽、散策路の維持管理、看板の整備など)
	河合地区を拠点とした周遊性の向上	・道の駅周辺における駐車場の確保
		・河合地区から大台ヶ原・大峯奥駈道等への登山コースの整備
2. 地域の新たな産業を育成する	地域住民が来訪者と関わる仕組みづくり	・大台ヶ原へのバス発着場の確保
		・河合周辺地区の周遊コースの設定(各拠点への案内サインの整備、自転車周遊コースの整備など)
		・地域内の資源を活かした体験プログラムの開発・充実(座禅、蛍の観察、柿の葉寿司体験など)
	地域産業の活性化	・空き家を活用した交流の場の整備(ゲストハウス、コミュニティカフェ等)
		・森の案内人(インタープリター)や歴史等の案内人の育成
		・新たな特産品の開発(林業資源の活用、柑橘類の栽培、先端技術導入による養殖など)
3. 住民の暮らしを支える機能を強化する	村外へのPRの強化	・ローカルベンチャーの創出(地域のなりわいづくりの勉強会、起業支援プログラムの導入など)
		・「フォレスト かみきた」の営業再開に合わせた地元商店・飲食店等の連携強化
		・地域の新たな魅力の掘り起こし(冬の大台ヶ原ツアーの開発、マウンテンバイクコースの開発など)
	安心して暮らせる環境づくり	・地域の魅力の発信(合宿の誘致、ファミリー層など、ターゲットを絞った村外へのPRなど)
		・新たな移動交通手段の検討(乗り合い自動車、自動運転バスの運行など)
		・児童の放課後支援、学童保育(とちの木センターなど)
		・災害時・緊急時のヘリポートの確保

4. まちづくり基本構想図

